



北海道医療大学大学院

○ 北海道医療大学大学院の教育理念・教育目標

教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな高度専門職業人の養成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを北海道医療大学大学院の教育理念とする。

教育目標

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 高度な専門知識および学術の修得
3. 独創的な研究および研究能力の開発
4. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究の推進

大学院医療技術科学研究科

臨床検査学専攻（博士前期課程）

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

医療技術の進歩と医療環境、社会環境の変化により高度化、多様化が進む医療分野に対応できる高度な専門性ならびに指導力を備え、人間性豊かな高度専門職業人を養成することにより、保健・医療分野の発展と人類の健康増進に貢献することを医療技術科学研究科臨床検査学専攻(修士課程)の教育理念とする。

教育目的

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育理念に沿って、人々の健康増進と保健・医療分野の発展のために、臨床検査学の先進的な知識と技術を持って、質の高い臨床検査を実践でき、主体的に学び成長し、指導的役割を担う高度専門職業人の養成を目的とする。

教育目標

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育目的に沿って、以下の教育目標を定める。

- ①幅広い学識と生命を尊重する豊かな人間性を備えた人材の養成
- ②臨床検査分野における高度な知識と技術を備え、質の高い臨床検査を実践できる人材の養成
- ③優れた問題解決能力を備え、包括的な視野を持って臨床検査の管理運営を実践できる指導的役割を担う人材の養成
- ④国内外の保健・医療分野への貢献を視野に入れ、主体的に学び、修得した能力を社会へ還元し成長できる人材の育成

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の三方針

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）では、人々の健康増進と保健・医療分野の発展のために、高度専門職業人として臨床検査学の最先端の知識と技術を修得、実践し、自己研鑽ができる指導的役割を担う人材の育成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

- ①生命を尊重し、他者を理解し、大切に思う心がある者
- ②臨床検査学領域の高度な専門性と研究能力を有する高度専門職業人をめざす者
- ③医療現場において指導的役割を担う医療人をめざす者
- ④保健・医療の分野に深い関心を持ち、自己研鑽ができる者

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語及び臨床検査学領域に関する専門科目の筆記試験により修学に必要な学力を評価し、さらに志望理由書、履歴書及び業務調書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

「社会人選抜」は、小論文により論理的思考力、表現力を評価し、さらに志望理由書、履歴書及び業務調書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（修士課程）の教育目標に基づき、以下の要件を満たすことで修士（臨床検査学）の学位を授与する。

- ①幅広い学識、高い倫理観を備えた医療人として、多様な背景を持った人々と共に感し、円滑なコミュニケーションを取る能力を身につけていること。
- ②臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力を身につけていること。
- ③様々な視点から現状の課題と今度の医療環境の変化を把握し、科学的根拠に基づく的確な判断を持って、組織の管理運営を実践できるリーダーとしての能力を身に付けていること。
- ④身近な地域および国際的な保健・医療や社会の動向に目を受け、常に自己研鑽に努め、修得した能力を社会へと還元し、自ら成長できる能力を身につけていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科は、本学の基本理念を重視し、臨床検査学に関する深い専門性を持って、保健・医療の分野へ貢献する高度専門職業人の育成を目的とし、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力の修得に必要な教育・研究を実践する教育課程を編成・実施する。本研究科では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを策定し、これに基づき講義、演習を行う。

- ①幅広い学識、高い倫理観を備えた医療人として、多様な背景を持った人々と共に感し、円滑なコミュニケーションを行う能力の修得を目的として、科学の基礎知識に関する科目、病態の成因機構に関する科目、保健・医療制度や医療倫理をテーマとする内容を含む科目、チーム医療やコミュニケーションをテーマとする内容を含む科目を配置する。
- ②臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力の修得を目的として、最新の診断法や治療法とそれに関わる臨床検査に関する科目、学部教育を基盤とした臨床検査分野の専門性を深化させる特論と演習科目、研究遂行に必要となる情報収集や解析方法、研究倫理などの知識や技術に関する科目を設置する。
- ③様々な視点から現状の課題と今後の医療環境の変化を把握し、科学的根拠に基づく的確な判断を持って、組織の管理運営を実践できるリーダーとしての能力の修得を目的として、医療組織や検査室の管理運営をテーマとする内容を含む科目、最新の診断法や治療法とそれに関わる臨床検査に関する科目、Society 5.0 による臨床検査環境の変化を視野に入れた数理・データサイエンス・AI の修得と活用に関する科目を設置する。
- ④身近な地域および国際的な保健・医療や社会の動向に目を向け、常に自己研鑽に努め、修得した能力を社会へと還元し、自ら成長できる能力の修得を目的として、国際的な医療の動向をテーマとする内容を含む科目、予防医学や感染症予防に関する科目、新しい診断法や治療法に関する英語論文を主体的に探索し読解する科目、主体的な知識や技術の修得と応用、自己研鑽による成長を目的とした研究科目を配置する。

大学院医療技術科学研究科

臨床検査学専攻（博士後期課程）

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

医療技術の進歩と医療環境の変化により高度化、多様化が進む保健・医療・福祉分野に対応するために、修士課程で修得した臨床検査学の専門知識、技術力を基盤とし、さらに独創的な研究活動を通して、地域社会の発展と人類の幸福に貢献することを医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）の教育理念とする。

教育目的

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）の教育理念に沿って、臨床検査学研究を実践するための倫理観と深い学識、高度な研究能力を有し、保健・医療分野において指導的役割を担うことができる教育者・研究者の養成を本専攻の教育目的とする。

教育目標

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）の教育理念・教育目的に沿って、以下の教育目標を定める。

- ①臨床検査学研究を実践するための高い倫理観を備えた人材の養成
- ②臨床検査分野における深い学識を備えた人材の養成
- ③臨床検査学の高度な研究能力と教育的指導力を備えた人材の養成
- ④保健・医療における現状の課題を把握し、視野の広い判断能力・研究推進力を備えた人材の養成

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の三方針

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）では、臨床検査学研究を実践するための高い倫理観を備え、臨床検査学分野における深い学識および高度な研究能力・教育的指導力を身につけて、国内外の保健・医療分野の発展に貢献することを目指す以下のような熱意のある人を広く求める。

- ①臨床検査学分野における基礎的研究を遂行し得る知識を有し、臨床検査学分野における最新の専門知識、高度な研究技法や研究機器の活用に関する知識および研究公正・研究安全に関する知識の修得に強い意識を有する者
- ②臨床検査学分野における課題を解決するための研究を立案できる知識を有し、研究遂行能力および研究を牽引するリーダーとしての教育的指導力の修得に強い意欲を有する者
- ③学術論文を読解できる英語力を有し、国内外の保健・医療分野に貢献するために研究成果を学術論文として社会に還元することに強い意欲を有する者

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりである。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語、臨床検査学領域に関する専門科目の筆記試験及び口述試験により修学に必要な学力を評価し、さらに履歴書、研究計画書などの出願書類により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

「社会人選抜」については、英語、小論文及び口述試験により論理的思考力、表現力及び修学に必要な学力を評価し、さらに履歴書、業務調書及び研究計画書などの出願書類により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）の教育目標に基づき、以下の能力を修得させることで博士（臨床検査学）の学位を授与する。

- ①臨床検査学の研究者に求められる研究公正や研究安全を含む倫理感を身につけていること。
- ②臨床検査学研究を牽引する研究者として、最新の知識、高度な研究技法や研究機器の活用に関する知識を身につけていること。
- ③臨床検査学の高度な研究を立案・遂行する能力と教育的指導力を身につけていること。
- ④国内外の保健・医療分野の発展に貢献する研究内容を学術論文の形で発表することで社会へと還元できる能力を身につけていること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医療技術科学研究科臨床検査学専攻（博士課程）は、保健医療に携わる者に求められる高い倫理観と臨床検査学に関する深い専門性を持って、保健・医療の分野へ貢献する研究者としての育成を目的とし、学位授与方針（ディプロマシー・ポリシー）において示した能力を身につけるため、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

- ①研究者に求められる高い倫理観を身につけるため、全ての学生が履修する共通科目として生命医療倫理学特講を開設し、研究公正や研究安全を含む倫理の理解を深める。
- ②臨床検査学研究を牽引する研究者として、研究動向の把握から研究立案の方法を見出し、研究課題解決のための研究手法を学び、研究遂行能力を身につけるため、最新臨床検査研究法特講を開設する
- ③臨床検査学に関する高い専門性を身につけるため、専門領域科目を5つに区分し、生体機能解析学特講では最新の生体機能検査と解析方法、細胞病態学特講では造血腫瘍や頭頸部腫瘍を中心とした病態解析、生体情報解析学特講ではゲノムや細胞情報と病態形成機序、分析化学検査学特講では予防医学に繋がる分析化学検査、感染生物学特講では寄生虫および細菌感染の分子機構について学ぶ。各専門領域では、臨床検査学の研究者として、研究力を養うとともに高度な専門知識や研究遂行力を身につけるため、国際的な医療の動向から知識や技術を修得する。
- ④国内外の保健・医療や社会の現状と課題の把握に基づいた研究を遂行し、さらに成果を学術論文として発表することで医学の分野に還元できる能力を修得することを目標とした臨床検査学特別研究を開設する。
- ⑤学修成果の評価は、授業科目ごとに定めたシラバスにおいて学修目標・学修内容と評価方法を明確に提示するとともに、学修目標の達成度に基づいて厳格に行なう。

○ 北海道医療大学大学院医療技術科学研究科の概要

超高齢化や新興感染症などによる疾病構造の変化、Society 5.0へのシフトと医療 AI の進歩など、医療を取り巻く環境の劇的な変化に対応できる臨床検査技師を育成することが急務となっている。こうした現状においては、臨床検査領域での新規課題を的確に読み取り、予防医学、AI やロボット技術、感染制御などの最新知識・技術を修得し、修得した知識や技術を臨床現場において有効に活用できる能力が強く求められている。

このような背景を踏まえ、臨床検査分野における高度専門職業人を育成することによって臨床検査分野の進歩を図り、地域社会の発展と人々の幸福に寄与することを目的として、医療技術学部の完成を機に、2023年4月に医療技術科学研究科修士課程を開設した。本課程では、生体機能解析学、病態情報解析学、血液病態解析学、免疫細胞生物学、感染生物学、遺伝子関連検査学、分子細胞病理学などの臨床検査学における専門分野について、学部教育で修得した基礎的能力を発展させるためのカリキュラムが編成されている。

さらに、2025年4月には、臨床検査学分野における高度専門職業人として幅広い学識と高い倫理観を持って多職種と連携してチーム医療を実践してきた臨床検査学分野における修士学位取得者が、高度な研究能力と教育的指導力を有し、国内外の保健・医療分野の発展に貢献できる教育者・研究者として育成されることを目的として、医療技術科学研究科博士後期課程を開設した。なお、本博士後期課程開設に伴い、修士課程を博士前期課程へと名称変更し、積み上げ方式による一体的な研究指導を行なっていく。

今後は、社会のニーズや医療分野の課題を視野に入れ、新たな臨床検査の技術・方法を研究する素地を身に付けるため、本学の既存の学部・研究科、関連諸学問分野との連携を図りながら教育・研究を推進していく。

○ 修業年限・学生定員

課 程	専 攻	修業年限	定 員	
			収容定員	入学定員
医療技術科学研究科博士前期課程	臨床検査学専攻	2年	4名	8名
医療技術科学研究科博士後期課程	臨床検査学専攻	3年	2名	6名

○ 研究分野

博士前期課程・臨床検査学専攻
【 7 研究分野 】
<ul style="list-style-type: none">・生体機能解析学・病態情報解析学・血液病態解析学・免疫細胞生物学・感染生物学・遺伝子関連検査学・分子細胞病理学

博士後期課程・臨床検査学専攻
【 5 研究分野 】
<ul style="list-style-type: none">・生体機能解析学・細胞病態学・生体情報解析学・分析化学検査学・感染生物学

○ 担当教員

■ 臨床検査学専攻 博士前期課程 担当教員

専攻	研究分野	教 授	准教授	講 師
臨 床 検 査 学 専 攻	生体機能解析学	幸村 近		
	病態情報解析学	遠藤 輝夫		高橋 祐司
	血液病態解析学	田中 真樹		高橋 祐輔
	免疫細胞生物学	坊垣 曜之		
	感染生物学	松尾 淳司		山崎 智拡
	遺伝子関連検査学	吉田 繁		
	分子細胞病理学	丸川 活司		
				近藤 啓
		藏満 保宏	鈴木 喜一	江本 美穂
		(二瓶 裕之)		

■ 臨床検査学専攻 博士前期課程 担当教員

専攻	研究分野	教 授	准教授	講 師
臨 床 検 査 学 専 攻	生体機能解析学	幸村 近 藏満 保宏		江本 美穂
	細胞病態学	田中 真樹		丸川 活司 近藤 啓 高橋 祐輔
	生体情報解析学	吉田 茂 坊垣 曜之		
	分析化学検査学	遠藤 輝夫		高橋 祐司
	感染生物学	松尾 淳司		山崎 智拡
			鈴木 喜一	